

### 第3回 スギ花粉米の実用化に向けた官民連携検討会 議事要旨

1. 日 時：令和6年5月30日（木） 10:00～12:00

2. 場 所：農林水産省国際会議オペレーションルーム

3. 議 事：

- (1) 中間とりまとめ（案）について
- (2) 専門チームにおける検討状況等について
- (3) 意見交換

4. 概 要：

(1) 中間とりまとめ（案）について

- ・ 中間とりまとめとして、開発経緯や課題、当面の取組が整理され、実用化までの方向性が明確になった。
- ・ 開発経緯や課題、当面の取組については納得できるものであるが、実際に事業化される段階では、今後の研究結果や企業それぞれの事情に応じて、様々な課題が生じると考えられる。今後の進め方については、状況に応じて、点検・見直しを行い、官民連携で課題解決に対応していく必要がある。
- ・ 効果が期待できる患者の記載は、効果が期待できない患者の存在だけでなく、効果のある患者が分かるような記載が良いのではないか。
- ・ 原料米の安定供給技術の記載については、種々の技術とシステムを使い分けた方が適切と考える。
- ・ 知的財産の記載について、特許は企業が事業化を考える上で非常に重要な情報であることから、スギ花粉米に関連して公表されている特許を記載すると良い。
- ・ 2～3年の間、服用する必要があるとすると、臨床試験が難しい面があるのではないかと。評価方法を慎重に検討していく必要があり、PMDAと相談しながら進めるのが良い。
- ・ 論理的には、類似薬があり医療的な位置づけが同じであれば同じ薬価という考え方が原則であるため、既存薬との差別化をどう示せるか等、市場性・採算性を意識した検討が必要である。

(2) 専門チームにおける検討状況等について

- ・ 生産コスト低減に資する技術開発としては、水を効率的に利用する垂直多段階式の栽培システム、収量やタンパク質含量を向上させる環境制御システム、労務費を削減するための生産の自動化やロボットの開発が考えられる。これらは技術開発の余地が大きく、生産コストの削減は十分に可能である。
- ・ 遺伝子組換えイネであることから、カルタヘナ法を遵守するための管理にも配慮する必要がある。